

科目名	生理機能検査学Ⅰ	教員名	飯田 典子	学科等	臨床検査	必修	履修年次	2
(科目番号)	(時間割参照)			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
				授業形態	講義	オフィスアワー	B205研究室	
授業概要	心電図・心音図・脳波・筋電図などの生理機能検査の特徴や目的および検査法や各種疾患に対する検査結果の判読法等について講義する。							
目的・目標	目的:循環器系検査、神経・筋機能検査について、目的や検査法および各種疾患に対する検査結果の判読法などを理解する。 目標:循環器系検査(心電図、脈管疾患検査など)、神経・筋機能検査(脳波、筋電図検査など)の目的や検査法および各種疾患に対する検査結果の判読法について理解できる。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	生理機能検査の目的と種類および業務範囲、患者の取り扱い方と注意事項	業務独占としての生理機能検査の業務範囲と目的などを理解させる。患者の取り扱い方について学ばせる。					
	2	検査の安全対策と患者の心理状態に対する対応	検査実施に当たっての安全対策について理解させると共に、患者の心理状態を把握しながら注意深く対応することの重要性を学ばせる。					
	3	心臓の電気生理学と心電図波形(I)	心筋細胞の脱分極波形と心電図各波との関係および正常心電図波形について理解させる。					
	4	心臓の電気生理学と心電図波形(II)	正常心電図波形と異常心電図(不整脈や心筋肥大)及び前壁心筋梗塞等について理解させる。					
	5	心臓の電気生理学と心電図波形(III)	心筋梗塞(側壁・下壁・後壁心筋梗塞など)と負荷心電図法について理解を深める。					
	6	心臓の電気生理学と心電図波形(IV)	ベクトル心電図の特徴について理解させる。心電計の構造と取扱い方について理解させる。					
	7	心音図と脈波検査法(I)	心音図の概念および心音・心雑音波形(収縮期雑音、拡張期雑音、過剰心音)と臨床応用について理解させる。					
	8	心音図と脈波検査法(II)	頸動脈・心尖拍動図・指先容積脈波などの検査法について理解させる。					
	9	心音図と脈波検査法(III) 心音図と脈波検査法(IV)	心機図・指先容積脈波の臨床応用について理解させる。心音計・各種脈波計の構造と取扱い方を学ばせる。					
	10	脳波・誘発電位検査(I)	正常脳波及び睡眠脳波とその検査法(脳波導出法などを含む)について理解させる。					
	11	脳波・誘発電位検査(II)	各種脳神経疾患と異常脳波および異常脳波検出のための導出法や賦活法について理解させる。					
	12	脳波・誘発電位検査(III)	各種刺激による誘発脳電位の検査法(視覚、聴覚、体性感覚など)について理解させる。					
	13	脳波・誘発電位検査(IV) 筋電図・神経伝導検査(I)	脳波計と誘発電位計の構造と取扱い方について理解させる。針筋電図の基礎(運動単位など)と臨床について理解させる。					
	14	筋電図・神経伝導検査(II)	各種神経・筋疾患について学び、誘発筋電図の種類と特徴について理解させる。					
	15	筋電図・神経伝導検査(III)	誘発筋電図を用いて神経伝導速度検査法について理解させる。筋電計の構造と取扱い方について理解を深める。					
成績評価の方法・基準	期末試験(100%)で評価する。							
教科書	最新 臨床検査学講座 生理機能検査学 第3版			東條尚子・川良徳弘 編著		医歯薬出版		
参考図書	標準臨床検査学 生理検査学・画像検査学 臨床検査法提要(改訂第35版)			谷口信行 編集 金井正光 監修		医学書院 金原出版		
教員からのメッセージ	主にパワーポイントを使用しレジュメを適宜配布するので、解説はしっかりノートをとること。また、教科書のページを指示するので、当日中にその箇所を読み、知識を確実なものにすること。 総合病院で勤務した臨床検査技師がこの授業を担当します。							